北東アジア学会つうしん

第47号

The Association for Northeast Asia Regional Studies Newsletter

2014年5月11日発行

発行 北東アジア学会事務局

京都市伏見区桃山長岡越中北町49-1-201 〒612-0056

電話 075-612-6012／ ファックス 075-612-6012 ／ 電子メールjimukyoku@anears.net ／ ウェブサイト http://anears.net/

今号のヘッドライン

【1面】 第20回学術研究大会の開催概要について

【2面】 第8期理事選挙について

【3面】 韓国東北亜経済学会2014年年次大会派遣報告

【3面】 総会・理事会・常任理事会議事 第7期第9回常任理事会報告

【6面】 会員消息

【6面】 事務局からのおしらせ

北東アジア学会第20回記念学術研究大会の開催概要について

北東アジア学会「第20回記念学術研究大会」は、2014年9月20日（土）-21日（日）に、日本大学国際関係学部三島校舎（三島市）にて開催予定です。

開催概要

開催日　2014年9月20日（土）、21日（日）

会場　日本大学国際関係学部三島校舎（三島市文教町2-31-145）

アクセス　http://www.ir.nihon-u.ac.jp/guide/access.html

大会テーマ　北東アジア国際関係の打開と発展――北東アジア学会の役割の再認識

ウェブサイト　http://anears.net/conf/conference2014.html ←最新情報を随時更新しています

大会スケジュール（予定）

前日・9月19日（金）

15:00 - 17:30　第7期第7回理事会（該当者のみ）

第1日目・9月20日（土）

09:30 - 11:30　第8期第1回理事会（該当者のみ）

11:30 - 12:30　編集委員会（該当者のみ）

13:00から　受付開始

14:00 - 18:00　シンポジウム「北東アジア国際関係の打開と発展――北東アジア学会の役割の再認識」

18:30 - 20:30　懇親会

第2日目・9月21日（日）

09:00 - 11:00　分科会・第1セッション

11:10 - 13:10　分科会・第2セッション

13:20 - 14:30　総会（昼食）

14:40 - 16:40　分科会・第3セッション

第3日目・9月22日（月）

エクスカーション　世界文化遺産「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」

北東アジア学会第20回学術研究大会実行委員会

委員長　川口智彦（日本大学）

委員　大西広（慶應義塾大学）、三村光弘（環日本海経済研究所）、山本雅資（富山大学）、山田一隆（立命館大学）

〒411-8555 三島市文教町2-31-145 日本大学国際関係学部 川口智彦研究室気付

電話 075-612-6012 ／ ファックス 075-612-6012 ／ メール conference2014@anears.net

大会参加申込スケジュール

詳報・最新情報は、大会ウェブサイト（http://anears.net/conf/conference2014.html）でご確認ください。

報告

大会ウェブサイトに掲載している募集要項を参照のうえ、ふるってお申込みください。

2014年5月24日（土）　自由論題の報告、企画分科会の提案の申込締切（ファックス）
2014年5月31日（土）　自由論題の報告、企画分科会の提案の申込締切（メール）
2014年8月16日（土）　予稿集原稿、報告論文（フルペーパー）締切
座長、討論者への報告論文（フルペーパー）送付締切

参加

大会実行委員会より委託した三島市観光協会が、後日、宿泊のあっせんをいたします。
静岡県等からのコンベンション補助金の獲得を目指しておりますので、ご賢察いただき、ご高配いただければ幸甚です。

2014年9月上旬　参加申込受付締切

第8期理事選挙について

選挙管理委員会の設置について

現在の役員（第7期）の任期満了（2014年9月21日まで）にともなう役員改選を行なうべく、第7期第10回常任理事会において、中戸祐夫会員（立命館大学）を委員長、山田一隆会員（立命館大学）を委員とする選挙管理委員会を設置することが了承されました。

選挙公示

第8期役員選挙管理委員会　委員長　中戸祐夫（立命館大学）

「北東アジア学会役員選出規定」および「北東アジア学会理事選挙実施細則」に基づき、第8期役員選挙を行う。

投票方法

1. 5月下旬に発送する投票用紙（被選挙権を有する会員の名列表）を用いて、本学会第8期理事に推す者20名以内について、投票用紙所定欄に〇印を付けてください。
2. 投票用紙に同封される内封筒に記入済み投票用紙を封入し、さらに返信用封筒に入れて、6月20日までに投函してください。なお、返信にかかる郵送料は、各会員にてご負担ください。
   〒603-8577　京都市北区等持院北町56-1　立命館大学国際関係学部　中戸祐夫研究室内
   北東アジア学会第8期役員選挙管理委員会　宛

今後の予定

2014年6月20日（金）　投票の締切（消印有効）
2014年7月19日（土）　第7期第6回理事会
選挙管理委員会による第8期理事選挙結果の報告
選挙に拠らない理事の選出
第8期執行部体制の内定
2014年9月19日（金）　第7期第7回（最終）理事会
新理事の応諾状況の確認、第8期理事名簿の確定
2013/14年度事業報告、決算、監査報告のとりまとめ
2014年9月20日（土）　第8期第1回理事会
第8期の基本政策の決定
2014年9月21日（日）　2014/15年度会員総会
第8期執行部、理事の承認
第8期の基本政策、2014/15年度事業計画の承認

韓国東北亜経済学会2014年年次大会派遣報告

あいさつする大西広会員

韓国東北亜経済学会の金振郁新会長

報告する金丹会員

本学会と学術交流協定を締結している韓国・東北亜経済学会の2014年年次大会が、2014年2月11日（火）、ソウルの成均館大学で開催された。このところ定着してきている韓国経済学会が主催する「経済学共同学術大会」の一環として、今年も開催された。本学会からは、大西広会員（慶應義塾大学）、金丹会員（東京理科大学）、山田一隆会員（立命館大学）の3名を派遣した。また、本学会学術研究大会にも近年参加している中国マクロ経済管理教育学会の劉瑞会長（中国人民大学）ら、日韓に加え、中国の学会を含めた学術交流がなされた。

開会式では、大西広会員が、本学会を代表してあいさつした。

その後の第1セッションは、日中韓の各々の学会の代表者が登壇するものであったが、大西会員が「北東アジア経済交流を阻害する日本外交の問題について---成長アジアとの共生へ歴史的転換を迫られる日本外交---」と題して報告した。

第2セッションでは、山田会員が「われわれは、北東アジア地域をどのように教えてきたのか？－北東アジア学会設立20周年と日本学術会議地域研究委員会との動向から」と題して報告した。

午後の部の冒頭、韓国東北亜経済学会の総会が行われ、新しい会長に金振郁氏（建国大学）が選出された。

第4セッションでは、金会員が「日中韓の相互依存関係から見た環境負荷構造の変化」と題して報告した。

本大会に先立って、日中韓の交流の夕べが、ソウル中心部の飲食店で行われた。友好的な雰囲気の中で、3か国の学術交流をいっそう深めることが共有された。また、本学会が設立20周年を迎え、記念学術研究大会を、今年9月に三島市で開催することについて、韓国、中国の研究者に協力を要請したところ、いずれも快諾を得た。

総会・理事会・常任理事会議事

第7期第9回常任理事会報告

概要

とき　2013年12月23日（月）14:10-17:35

ところ　日本大学法学部2号館6階「261号教室」

参加者　常任理事7

報告事項

[1] 事務局消息

山田一隆事務局長から、第7期第5回理事会以降の事務局消息について報告があった。

[2] 学会誌編集委員会報告

堀江典生常任理事・「北東アジア地域研究」編集委員会副委員長から、「北東アジア地域研究」第20号の準備状況について、【資料2】に従って報告があった。

今村弘子副会長・「Frontiers of North East Asian Studies」編集委員長から、FES第13号の準備状況について、口頭報告があった。その中で、中国や韓国で投降を呼びかけた際に、Social Sciences Citation Index (SSCI)に掲載されている雑誌かどうかを、必ずと言っていいほど問い合わせがある、とのことであった。

協議事項

[3] 第20回学術研究大会準備状況

川口智彦理事・第20回記念学術研究大会実行委員長から、第20回記念学術研究大会の準備状況について、文書（【資料3】）報告があった（山田一隆事務局長が、代理で口頭報告）。また、佐渡友哲会長から補足説明があった。

おもな論議は、以下の通り。

- 前回の理事会でも、20周年記念事業の一環の組織改革として、「プログラム委員会」というアイデアが提案されていた。
- 毎回の大会開催校に、その都度、大会テーマを考えてもらうというより、いかに継続性を担保していくのかということだったと思う。
- 継続性を担保するということであれば、会長のイニシアチブをどのように反映するのか、ということもある。会長が「プログ

ラム委員会」に入るという考え方もある。

- 従来、開催校が組織する大会実行委員会との関係はどうするのか。大会開催校の研究者に会員になってもらうというねらいもあった。
- 3年間に耐えるテーマは、常任理事会が提示すべきであろう。
- 継続性の担保について、この間の議論は2つの論点があった。1つは、大会テーマの継続性であり、もう1つは、大会開催のノウハウの継続性であった。この2つを、別々の委員会にするというアイデアもあった。

→ 誰が大会を担当することになってもやれる環境を、学会として作っていくことが必要ではないか。たとえば、開催マニュアルを整備したり、ノウハウを継承したりすることだ。

→ 常任理事会が大きな方向性を示すという前提で、プログラム委員会は、それを毎回の大会に、落とし込んでいくようなイメージ。1日目のシンポジウムの論点を、次の年の企画分科会でフォローする、あるいは、その逆など。

→ 毎回異なるテーマ設定をシリーズにしていく工夫ややりとりができるようにしていく。人選にもよるが、それぞれの開催校の意向を交換する中で、前の大会と次の大会の継続性を形成していく。

- 制度上、「プログラム委員会」はどのように位置づけられるのか。

→ 会則上の「各種委員会」にあたる。2つある編集委員会もこれにあたるため、3つめの各種委員会として、「プログラム委員会」を組成することになる。各種委員会の組成は、理事会の議決事項であるが、次の理事会は、6月ないし7月の予定のため、大会直前となる。第20回記念学術研究大会に向けて、実効的な活動を行うためには、別の方法を検討する必要がある。

以上のような論議を経て、現在、日本大学の川口智彦理事が、大会担当となっていることに加え、

- 第20回記念学術研究大会実行委員会を、川口理事を中心に、大西広副会長、山田一隆事務局長、富山大学の山本雅資会員により、組織化すること、
- 3つ目の各種委員会として、テーマの継続性を踏まえた、円滑な大会運営を実現することを目的として、「プログラム委員会」を組成するべく、直近の理事会の議題とすること、

が了承された。

[4] 学会設立20周年に向けた取組について

山田一隆事務局長から、学会設立20周年の取組について、この間の議論の整理が示された。前号の「[3] 第20回記念学術研究大会」と、一体的に論議された。

おもな論議は、以下の通り。

1. 第20回記念学術研究大会

1) 会員の資源を活用すること

- 第20回記念大会のシンポジウムの構想の中で、「地域研究」としての「北東アジア」という問題提起があった。地域研究として北東アジアを教えている人に登壇してもらったらどうか。
- この間、会員の資源を活用するという議論があったが、いままで、ほとんど大会に参加していない会員が、本学会の文脈で、どのような発言をするのか、想像できない状況は不安である。主張を確認しておく必要がある。
- その点は、当の本人にも、何を話したらいいのか困る、と思う。
- シンポジウムの登壇者とするより、分科会で報告してもらったらどうか。
- 新潟でサテライト研究会を企画してほしいというリクエストを出しているので、三島大会で企画分科会として、それを実現するということではどうか。

2) 地域研究学会としての北東アジア学会

- 北東アジア学会は、もともとは「環日本海学会」だったことを確認する企画としてもよい。「「裏日本」論」再考、とか。
- その文脈と教育とを重ね合わせると、最近はやりの地元学、地域学というものが浮かび上がってくる。大きな地域研究ではないが、ローカルな地元学は、生涯学習とも親和性がある。
- 国家間関係の対抗関係として、地方、地元、地域はどうなの？という立て方で、新潟らしい企画を立てられるのではないか。
- 北東アジアは、とかくNationalなものが、Localなつながりを遮断しやすい環境にある。東京は、太平洋の向こうを見ている。他方で、新潟をはじめ、「環日本海」でつながる日本海沿岸都市は、対岸を見ながら、中国や韓国とは、ふつうにビジネスをやっている。東京ではない新潟にあるようなミクロな動きから解きほぐす企画分科会なら展開できるだろう。
- 「北東アジア交流」と「表/裏日本を乗り越えよう」という2つの話は、大きな流れの中で1つだろう。
- シンポジウムだけでなく、企画分科会としても大会テーマを背負ったものを展開すればいいだろう。「「環日本海学」再考」分科会とか。環日本海学会から北東アジア学会に名称変更を伴った10年間だった。

3) 外国からの参加者の取り扱い

- 何か、必ずしもシンポジウムに登壇させなければならないということではないだろう。
- Local to Localな話なら、登壇もありうるだろう。それぞれの国内にも、ソウルや北京とは違った動きはみられる。
- 中国、韓国からの参加者には、コメントを求めたらどうか。Local to Localの観点からは、「裏日本論」に、教育の観点

からも、彼らが北東アジアをどう教えているのかに照らして、何らかのコメントが可能だろう。

- 第20回記念大会のシンポジウムとしての議論の水準を担保するために、院生や会員にボランティアベースで通訳を依頼するのは、そうとう困難であろう。
- 日本語が使えるこの分野の専門家を送り込んでもらうように依頼するか、依頼してもいない可能性も低くない。通訳をきちんとやろうとすれば、やはり大きな金額になってしまう。
- 通訳の金額は、同時通訳と逐次通訳とで大きな開きがある。金額との相談で決めていくことになるだろう。むしろ、無限定に日本語ができるから、という送り込まれ方はやめたほうがいい。言語より内容が合致していることが優先される。

2. その他の20周年事業の「3本柱」

- 市販本と教育憲章をどのように実現していくのか。市販本は、教育憲章が立ちあがってくるということは、それを反映した内容であってもいい。教科書的なものでもよい。
- 「北東アジアを理解する15章」といったものがいいかもしれない。10周年の「北東アジア事典」は、200名の執筆者にことばの説明をしてもらう、本当に事典だったと思う。今回の市販本は、読むもの、伝えるもの、としての形がいいだろう。
- 生涯学習や市民協働の視点からも、親和的なものとする必要がある。
- 「中国百科検定」の公式テキストを作ったが、本当に「百科」になっている。イメージとしては、「北東アジア事典」と「北東アジアを理解する15章」の中間ぐらいかもしれない。
- 2014年9月には、日本学術会議地域研究委員会が、参照基準の採択を目指している。経済学などではすでに提案されており、学士課程で何をどのように教えるのか、について、地域研究学会でも、ホットイシューになっているだろう。
- 常任理事会で基本的な方向性を示した上で、編集委員会を別途立ちあげたらどうか。

3. 学会活動の英語による発信

- FESの移管、新創刊によって、学会ウェブサイトの英語版の製作が急務になっている。

→ これについては、FES編集委員会と連携して、20周年積立を活用しながら、立ち上げたい。

→ 20周年積立の活用は、初期費用のみを見込んでいる。英語版を抱えることで、ウェブサイト全体のランニングコストが、金銭的にも労務的にも大幅に増大するなら、できるだけ小さくなるように、日本語版も含めた大規模改築を、この財源で実現したい。

4. 組織と財政

- 組織については、事務局の複数化、新会員制度への移行が柱であるが、第8期発足時に実現したいと考えている。

以上のような論議を経て、

- 第20回記念学術研究大会では、「環日本海学」再考、「裏日本論」再考、といった企画分科会を、新潟地域の会員を中心に、企画する、
- 会員の資源の活用も、上記の企画分科会での実現を目指す、
- シンポジウムでは、地域研究としての「北東アジア学」に、国家的なものと地方、地域、地元的なものを交差させる議論、そこに、教育の視点を盛り込んだ形をてがかりに、[3]で組成することが決まった大会実行委員会で検討を深める、
- 海外からの参加者の通訳の問題は、議論の水準を担保することを優先しつつ、費用を精査して方法を具体化する、
- 市販本の在り方については、次回の常任理事会（2014年4月予定）で、大きな方向性を詰め、編集委員会を組成する、
- 英語版ウェブサイトについては、FES編集委員会の意向を踏まえ、学会事務局が連携して推進する、

ことが、了承された。

[5] 入会の承認、退会の報告

山田一隆事務局長から、院生会員1名の入会申込について提案があり、事務局提案通り、承認された。なお、第7回第5回理事会以降の退会申込は、7名であったことも報告された。

確認事項

[6] 第7期第5回理事会議事抄録について

山田一隆事務局長から、第7期第5回理事会（2013年9月21日）の議事抄録が示され、原案通り了承された。

[7] 2013/14年度会員総会議事抄録について

山田一隆事務局長から、2013/14年度会員総会（2013年9月22日）の議事抄録が示され、原案通り了承された。

次回の予定

第7期第10回常任理事会

とき　2014年4月20日（日）14:00-

ところ　キャンパスプラザ京都

議題　第20回学術研究大会について／学会設立20周年に向けた取組について／人事について／その他

（了）

会員消息

新入会員　　5名

2014年4月20日第7期第10回常任理事会承認

会員種別	在住区分	氏名	組織・機関	推薦人
一般	海外	崔 永鎬	霊山大学	佐渡友哲、孔義植
一般	国内	宮塚 寿美子	在日米陸軍アジア研究所	今村弘子、山本雅資
一般	国内	坂本 正範	中日新聞北陸本社経済部	
一般	国内	李 紅梅	新潟大学大学院現代社会文化研究科博士研究員	三村光弘、朱永浩
院生	国内	生駒 智一	立命館大学大学院国際関係研究科	佐渡友哲、中戸祐夫

坂本正範会員は、瀬戸勝之会員の異動に伴う退会の後任。

退会者　　9名

2014年4月20日第7期第10回常任理事会報告

会員種別	在住区分	氏名
一般	国内	尹 淑鉉
一般	国内	内田 彰
一般	国内	山本 武彦
一般	国内	君島 和彦
院生	国内	児玉 修
一般	国内	瀬戸 勝之
一般	国内	李 点順
一般	国内	緒方 薫
一般	国内	島崎 美代子

今回の入会承認、退会報告で会員数は、一般・国内195名、一般・在外12名、院生36名、賛助3団体、特別賛助0団体、計246名・団体となります。

事務局からのおしらせ

[1] 会費納付のお願い

(1) 2013/14年度会費の納付について

2013/14年度の会費納付をお願いいたします。先日お送りしました会費納付のご案内で金額（過年度未納分がある方は併せてご請求申し上げております）をお確かめの上、**同封の郵便振替払込票**をご利用ください。

年会費	一般	10,000円
	院生	5,000円
	賛助	20,000円
	特別賛助	100,000円

ゆうちょ銀行郵便振替口座

口座番号　　00990-3-117008

口座名義人　　北東アジア学会

(2) ネットバンキングに対応した銀行振込の取扱開始について

ネット専業銀行やインターネットバンキングの普及により、金融機関に赴かなくても、資金移動が簡便な時代になりました。こうした時代潮流にかんがみ、第7期事務局から、**銀行振込でも会費納付を**申し受けることにしました。学会事務局が3年ごとに移転する本学会の特性上、全国サービスを展開する金融機関として、ゆうちょ銀行を選定いたしました。せいぜいご利用ください。なお、振込の際には、会員氏名を打電してください。振込手数料は会員各位にご負担をお願いしています。

銀行振込（**ゆうちょ銀行**以外の金融機関から）・その1

銀行名	**ゆうちょ銀行**（金融機関コード9900）
支店名	**四三八**（ヨンサンハチ）（支店コード438）
口座種別・番号	**普通**8097831
口座名義人	**北東アジア学会**

銀行振込（**ゆうちょ銀行**以外の金融機関から）・その2

銀行名	**ゆうちょ銀行**（金融機関コード9900）
支店名	**〇九九**（ゼロキュウキュウ）（支店コード099）
口座種別・番号	**当座**0117008
口座名義人	**北東アジア学会**

銀行振込（**ゆうちょ銀行**総合口座（旧・ぱるる）から）

記号	14380
番号	80978311
口座名義人	**北東アジア学会**

[2] 会費の減免措置等について

学会事務局では、以下の会員について、会費の減免、支払猶予の措置を行っています。該当者は、学会事務局までお申し出ください。

- 東日本大震災被災会員［2012/13年度、2013/14年度会費の免除］

[3] 会員への／との情報提供・交換について

第7期事務局では、会員への情報提供、会員との情報交換のためのツールとして、ウェブサイトや電子メールを抜本的に積極活用していくことにしています。

学会誌「北東アジア地域研究」や「北東アジア学会つうしん」の発行頻度に依存することなく、柔軟に迅速な情報を発信していくことを企図して実験的に下記の諸点に取り組んでいます。

- 常任理事会の電子メールによる持ち回り開催
- 「北東アジア地域研究」「環日本海研究」の全論文、記事のダウンロード
- 「北東アジア学会つうしん」の電子メールによる配信（紙媒体よりも早く「つうしん」を読んでいただけます）
- 全会員への不定期なおしらせの配信
- 会員相互の情報交流
- 「北東アジア学会つうしん」のウェブサイトからのファイルダウンロード
- 会員所属機関ウェブサイトとのリンク

本学会でも多くの会員のみなさまが、すでに電子メールアドレスを学会事務局にご連絡いただいており、これをベースに各種システムのデザインを、今後も順次行なっていく予定です。また、電子メールアドレスをご連絡いただいていない会員のみなさまには、これを機会に電子メールやウェブサイトの活用をご検討いただければ幸いです。

[4] 学会ウェブサイト会員専用領域へのアカウントとパスワード

アカウント anears　　パスワード TOra1001

（てぃー・おー・あーる・えー・いち・れい・れい・いち）

学会ウェブサイト会員専用領域では、「環日本海研究」「北東アジア地域研究」の創刊号からのすべての論文をpdf形式で、会員向けに提供しています。ぜひご利用ください。

アカウント、パスワードとも、大文字小文字の違いを認識します。変更時には、「つうしん」にてお知らせいたします。

編集後記

「つうしん」第47号は、9月に開催する第20回記念学術研究大会の概要、第8期理事選挙の公示を中心にお伝えしました。早いもので、三島での大会にあわせて開催される会員総会で、第7期執行部は任期満了を迎えます。20周年事業は、第7期のうちに、完了できないものもありますが、第8期への円滑な引継を行いたいと考えております。遅れております「会員名簿2014」の発送と相前後して、理事選挙の投票用紙は、5月下旬にお手元に届く予定です。学会運営にみなさまの積極的な参画をお世話になりたいと考えております。引き続き、みなさまのお力添えのほど、よろしくお願い申し上げます。

【山田一隆】